

第20回食育推進全国大会第1回徳島県実行委員会・意見概要

- 1 日時：令和6年7月8日（月）午後3時15分から午後4時50分まで
- 2 場所：徳島県庁 10階 大会議室
- 3 出席者：実行委員28名出席（うち代理出席5名）、2名欠席
アドバイザー3名出席、1名欠席
関係課14名出席

4 議事

- 第1号議案：実行委員会設立について：原案どおり承認
- 第2号議案：役員を選出（監事）について：原案どおり承認
- 第3号議案：令和6年度事業計画及び収支予算：原案どおり承認
- 第4号議案：大会のテーマ、コンセプト及びスケジュールについて
別添のとおり修正

修正1

「資料4-1」大会テーマに徳島らしさをさらに出すため、
本年3月に新たに作成した本県の新しいロゴ「∞」を新たに加え、
食と徳島の力は無限大であり、鳴門の渦潮のごとく、オール徳島で
一丸となり取り組む思いを表現

修正2

こどもの頃からの食育が大切との意見を受けて、
「資料4-1」コンセプト2：食を通じた健康づくりの項目に、
こどもの食育を追加

その他

各委員、アドバイザーの皆様から頂いた御提案は、今後の企画検討
で活かすこととする。

5 その他

第4号議案については、修正案で各構成団体に確認依頼⇒了承

【各委員、アドバイザーの皆様から頂いた提案】

■委員から頂いた提案

- 大会テーマの部分で、もう少し徳島色を出すとよい。
- 大会においては、これから先を担う子どもたちに関わるチャンスを与えていただけたら非常にありがたい。
- 保護者に来てもらって、親子で来て楽しんでもらえるような企画ができるといい。
- 全国、世界に発信するのも良いが、まず足元に目を向けて、徳島の地元のこともみんなで考えられるような大会になるといい。
- 徳島では、当たり前で美味しいものも、県外に行くと認知度が低いこともある。徳島には最高に美味しいものがたくさんあるので、地元の子どもたち、地元の保護者、そして県外、海外の人にも、楽しんでいただけるような大会になればいい。
- この大会は、子どもをターゲットにして家族で会場に来てもらおうと、良いと思う。
- 徳島県には肥満の方が多く、糖尿病や生活習慣病につながっているが、肥満に該当する年齢が低年齢化してきており、保育所、幼稚園、小学校低学年から始まっているので、低年齢化に対する対応も必要。
- 「食物アレルギー」の子どもに対する対応も必要。
- これまでの委員の皆様から子どもに対する食育は非常に大事だというキーワードがあったが、その考えに賛同。
- 大会コンセプトの「食を通じた健康づくり」の部分に、家庭と地域、大人というキーワードがあるが、「子ども」を入れていただくと皆様のご意見が集約されるのではないかと。
- こどもの時からの食育が非常に大事で、子どもから大人につながっていくと思う。
- 医師会としては、医療的なことで助言ができたらと思っている。
- 歯科医療の分野では、今、いわゆる口腔機能発達不全症（お口の機能がうまく発達してない）の子どもたちが増えてきている。
- 徳島大学の先生方に協力いただき、「カミングチェック」という噛む回数を数える教育プログラムを行っている。
- よく噛んで食べると味も変わるし、いいこともあるということを経験していただくブースをやりたい。
- 乳幼児期から高齢者まで切れ目のない食育に加え、災害地の対応等に取り組んでいるところで、あらゆる年齢に応じた栄養の関わり方、食事の関わり方をお伝えしていく形で、関わっていききたい。
- 世界を視野に入れた徳島の食の魅力発信に協力できると思う。
- こどもの成長に合わせた伝え方は大切。
- 親子で一緒にできることを実施できればと思う。
- こどもに焦点を当てた取組ができれば良い。
- こどもから高齢者までが楽しめる大会になればいいと思う。
- これまで実施したアンケートで体験型の取組をしてほしいという回答が多かったことから、体験コンテンツを入れた方が良い。
- この大会を通じて、次に繋がることは大切なポイント。
- 徳島にはプロスポーツがたくさんあるので、野球、サッカー、バスケットボールはじめ、スポーツと食育という観点で、企画を立ち上げて面白いのではないかと。
- 徳島らしさということであれば、色んな野菜、果物、魚、畜産物も含めていろいろ

なものがあるので、そういったものの収穫等、実際に何か体を動かしてお子さんと一緒にやっていただくとことが特に印象が強くなると思う。

- 6月であれば野菜は少ないと思うが、知恵を出し合って、そういった取組も実施してみてもどうか。
- 畜産物の生産・供給は、私たちが家畜の「命」をいただくということ。来場者に、家畜や生産に携わる者に対して「感謝」の念を抱いてもらえるような発信ができればと思う。
- 食材としての県産水産物には、大きな価値があると思うが、骨の問題により、近年、学校給食や家庭内でも扱いが難しくなっている。大量生産、大量消費の経済効率重視が主流となる中、スーパーなど小売店店頭では切り身での販売が主となり、丸のままの魚や骨付き魚の販売が減っているため、子どもだけでなく親である大人でも魚への馴染みがなくなっている。これからは食育として、魚そのものに触れ、知ってもらう活動（丸の魚を使用した親子料理教室や魚に触れ合えるタッチボールなど）を進め、魚のおいしさを再認識していただくとともに、「魚には骨があるのが当たり前」との認識も深めてもらい、骨があることで魚を避けることがないようにする必要がある。
- 世界も視野に入れた徳島の食の魅力の発信という観点で、プリズムラボの柴田シェフを推薦させていただきたい。洋菓子世界大会で日本代表の1人で、2023年に優勝した1人。2年前に徳島に移住をして、徳島のことかなり理解しているから、食育にもつながるようなコラボができるのではないかな。
- サステナブルな食、フードロスという観点でコオロギを活用し、残渣を餌としてタンパク質に変える取組を行っているグリラスという会社を取り上げていただければと思う。
- 本県の企業・産業界には食に関連する企業も多いので、今回の大会が産業の振興にもつながるようになればと期待している。
- 徳島らしさをどう肉付けしていくかが、これからの課題。
- 富山大会では8.4%の方がSNSを見て来場している。SNSを上手く使って一般の方を取り込めると良いのではないかな。
- これまでの20回を総括するような、例えば、昔、他県の大会で発表された方のその後の活動について発表してもらいたいもの良いと思う。
- サステナブル、エシカル、フードロスなど、言葉だけが一人歩きしないように、どんな活動なのかを県民によく知ってもらってそして実行できるような取組ができればいいと思う。
- 徳島県の郷土料理はじめ、徳島の食を派手に魅力的に、PRできればいいと思う。
- 子どもたちに食育のイベントを通して、興味を持ってもらうことが大事。
- 世界の中の日本、徳島として、SNSがこれだけ広がってきてる時代なので、しっかりとPRできたらいいと思う。
- 発酵食品については、学術的な面からもしっかりPRすることも大事と思う。
- 世界は人口爆発。昆虫のタンパクを利用することやプラントベースの食品に関する発信も重要。
- できるだけ多くの方に参加していただく、また大会に向けて盛り上げていくということは、広報の力が大事だと思う。
- 各市町村は、それぞれ広報媒体を持っており、広報の材料を頂けると掲載することはできる。データで頂けると有り難い。
- 改正食料・農業・農村基本法の中で、消費者の役割として、食料の持続的な供給

に資する物の選択に努めることが新たに位置付けられたことから、その実現のためにも、食育が重要となる。生産から流通、消費までの食料システムの関係者が一体となって取り組むべきものだということが分かる内容も盛り込んでいただきたい。

■アドバイザーから頂いた提案

- これまでの大会参加者の実績として、県内が8割、県外が2割ということだが、半分以上は県外から来ていただく、また世界から来ていただくという大会にすべきだと思う。
- 万博期間中でもあるし、旅行業者とタイアップするといいと思う。
- 予算に限りがあると思うので、SDGs に取り組む企業とも連携し、スポンサーになってこの取組を応援してもらい、そしてお互いにとってメリットがあるような大会に繋ぐということが非常に重要だと思う。
- 高校生、地元の人、農家さんを含めて、徳島ならではの地に足がついた泥くささのようなものを世界の方々に見ていただくというような大会が良い。
- 人口2～3万人のイタリアの都市では、ガストロノミーで年間60万人もの集客を実現している。
- イタリアにおいても、アレルギーやフードロスが問題となっており、食育大会においては、こういった地球規模の食の課題に向き合う機会を作っていくべきではないかと思った。
- いろいろな形で世界との接点を実現させていきたい。
- 大人も子どもも考えるきっかけになるような体験、知識のインプット、おいしいという感覚を与えられる場等、多様な視点で、感覚を刺激する、考えられるきっかけになるプログラムができるといい。
- SDGs という観点からも、紙の配布物でなく、タブレットやスマホで取り入れられるコンテンツを用意できるといい。